

第92回

会社訪問

株式会社二葉科学



会社プロフィール

代表者：代表取締役社長 山岸達也

所在地：〒277-0852 千葉県柏市旭町1-12-1

TEL：04-7141-2100

FAX：04-7141-2110

設立：1967年5月（創業：1959年）

資本金：5,100万円

営業所・工場：柏テクニカルセンター、柏工場、茨城工場

事業内容：環境試験装置、熱制御装置の提案・製造など

URL：<http://www.futaba-kk.co.jp>

(株)二葉科学 会長 山岸 啓三氏 社長 山岸 達也氏へのインタビュー

聞き手：南 明則（広報副委員長） 岡田 康弘（事務局長）

（取材・撮影・編集協力：クリエイティブ・レイ株）

自動車産業から高い支持を受ける
“熱制御装置・環境試験装置”の研究開発企業

— 御社の創業は1959年、会社の設立は1967年と伺っています。山岸啓三会長にこれまでの会社の歩みをお話いただけますか。

会社を始めた頃は板金加工の仕事をしており、乾燥器を作っている会社に、完成前の製品を納めていました。創業当時はまだ車も少ない時代で、製品はリヤカーに積んで運んでいました。都内は坂が多く、1人でリヤカーを引いて上れないような所では、坂の下で荷物を運ぶリヤカーを待っていて、相手のリヤカーを後ろから押す代わりに自分のリヤカーも押ししてもらっていました。今思うと、そんな苦労話も懐かしく思い出されます。

ある日、私たちが板金加工をして納めた10万円の製品が、乾燥器の完成品になると200～300万円を取り引きされていることを知りました。そこで、なんとか独自で完成品の製造までできないかと、努力を重ね、創業から10年ほどして、ようやく完成品を送り出せるようになりました。

— 現在、熱制御装置や環境試験装置を製造されている御社が、特に自動車業界で高いシェアを持つことができたきっかけをお話いただけますか。

当社は乾燥器からスタートし、徐々に製品の幅を広げ、1983年頃には環境試験装置の生産体制を強化していました。当時、環境試験装置を最も必要とする業界は電気業界でした。特に半導体や液晶を扱う業種が多くを占めていたこともあり、同業者の多くがそちらにシフトしていきました。しかし、競合が激しくなったこともあり、私は電気業界から自動車業界との取り引きに集中するようになりました。

電気業界といえば、まさに花形の産業でしたが、やがて、価格競争などで徐々に勢いが失われたことで、電気業界へ行った同業者の経営も次第に思わしくなくなりました。



若かりし頃の山岸啓三会長



千葉県・柏市に本社を構える



おもに熱制御装置の製造を行う茨城工場



2003年に開設した柏テクニカルセンター

一方、自動車業界は、電子化がますます進み、環境試験装置の需要も増えていきました。現在では自動車メーカーを中心に、様々な業界のお客様と取り引きをさせていただいております。

— 御社は千葉県柏市に本社を置かれていますが、山岸啓三会長のご出身はどちらなのでしょう。

私は東京・神田神保町の生まれで、親父は着物の仕立て職人をしていました。空襲で焼ける前の話ですが、男仕立ての着物というのは人気があり、父の下には若い女性職人が10人ぐらい住み込みで働いていました。

私が神保町を離れたのは、空襲を避けるため、埼玉のお寺に集団疎開をした10歳の頃です。ある夜、先生が子供たちを本堂の前に呼んで、真っ赤に染まっている山の向こうを指差して「もうお前たちの帰る家はないんだよ」と言われました。それが昭和20年3月10日の東京大空襲で、その夜の光景は今でも記憶に残っています。幸い両親は無事でしたが、神保町の家は焼けてしまい、東京へ戻ってからは豊島区の東長崎で暮らすことになりました。

— 続いて山岸達也社長に伺います。御社は柏の本社のほか、柏工場と柏テクニカルセンター、そして茨城にも工場がありますが、どのような体制で業務を進められているのでしょうか。

柏工場は自動車向けの環境試験装置をメインにし、茨城工場では乾燥器から発展した熱制御装置を中心に生産を行っています。なお、以前は乾燥器

を生産ラインで使うことは少なかったのですが、この10年ぐらいの間に生産ラインで使う熱制御装置が増え、茨城工場でのウェイトも増えています。

柏テクニカルセンターは2003年に開設した施設で、柏工場から車で5分ほどの東大柏ベンチャープラザ内にあります。ここでは各種試験の代行や、遠赤外線加熱技術を軸として熱と環境創造技術の新たな用途開発を行っています。

現在、柏にはつくばエクスプレスが開通し、東京大学のキャンパスや国立病院など国の機関もでき、柏サイエンスパークが整備されています。また、都心にも筑波研究学園都市にも近く、たいへん注目される土地になりました。会長がこの場所に土地を購入した当時は注目する人などほとんどいなかったのですが、運も味方してくれたようで、その後、急速に開発が進み、私たちのような研究開発型企業にとっては最高の環境となっています。

— 今後の事業目標や課題などがありましたら、お聞かせいただけますか。

当社の事業の中心は、1品1品、研究開発をしながら、製品を作り出すカスタムオーダーです。当社のような技術を持っている企業は他にそうはありませんし、自動車業界で当社の果たす役割はますます重要になっていきます。

今後はカスタムオーダーで得たノウハウを少しでも標準化して事業展開ができればと考えています。自動車関連の製品は過酷な環境が求められるので、そこで培われた技術を他に展開していけば良い製品



遠赤外線加熱装置（左）をはじめとする二葉科学の主力製品

づくりが可能です。当社はまだそこへトライできていないのが現状です。

技術力も、会社の知名度も、人のレベルも上がってきているので、その先を目指さなければと感じているところです。

— 海外での事業展開などはお考えでしょうか。

堅実経営を第一と考えている会長は海外進出にはあまり乗り気ではないのですが、私自身は、ここだというときには、やらなければいけないと思っています。今はどんなに良い発想であっても、変化のスピードが早いので、タイミングがずれるとチャンスを失ってしまうことがあります。

周囲からは海外展開を勧められ、オファーもたくさんあります。例えば、製品を輸出していただいている商社などからも、一緒に海外で生産を行わないかといった話をいただいています。私自身も海外視察へ行ったり、勉強会に参加したり、海外市場の情報を集め、どのタイミングで、どんな人材を投入すべきかを考えています。

ただし、中国などでは1台目の機械を納めると、それがコピーされてしまい、2台目以降は現地企業とのコスト競争になってしまうという話も聞きます。そういったリスクを考えると、独立して工場を建てるというだけでなく、合弁などを視野に入れて検討していかなければならないとも考えています。

— 山岸達也社長の経営方針や経営理念などをお聞かせいただけますでしょうか。

私自身、この会社に入社してから長い間、会長の後ろ姿を見てきて学んだことがたくさんあります。会長もそうでしたが、私も人を大切にするということを第一に考えています。それが会社の繁栄にもつながり、自分自身を高めることにもなるのだと強く感じています。

実は、当社では親子二代で働いている社員も少なくありません。その背景には昔は人を募集してもなかなか人材が集まらなかったという事情もあったので、社員の息子さんたちを採用することで定着率が上がり、今日の会社発展の基礎になっているようです。

— 山岸達也社長が代表取締役社長に就任されたのは2005年とのことですが、社長業の継承は順調だったのでしょうか。

私が社長に就任したのは30代でしたが、そのときは会長はもちろん、会長の右腕である重役たちもたくさんおり、衝突したこともありましたが、若い世代の経営者が会社を継ぐときにはいろいろな問題があるでしょうが、振り返って思うことは、衝突の主な原因はコミュニケーション不足ということです。その後、積極的にコミュニケーションを取るようになったことで、だんだんと認めてもらえるようになっていきました。



山岸啓三会長と山岸達也社長

— これまで経営者として強く印象に残った出来事があれば、お聞かせいただけますか。

やはり、会社設立 50 周年を創業者である会長とともに祝えたことは、感慨深いものがありました。私自身は一緒に仕事をしたことはなかった引退された社員や長いお付き合いのある販売店の方々などにも来ていただきました。彼らの楽しげな様子を見ると、こういう人たちに支えられて今日の二葉科学があるのだということを、改めて感じました。

最近では定期的に新入社員を採用しています。新入社員が徐々に成長していく姿を見るのは、実に楽しいものです。

また、新入社員が増えることで、会社全体の雰囲気も少しずつ変わっていきました。勉強するのが楽しいという若手たちに、私はもちろん、ベテラン社員たちもいい刺激を受けています。

— 山岸社長は、柏で地域貢献をされているようですが、どのような活動をされているのでしょうか。

音楽学校などで専門教育を受けたことはないのですが、私は昔から音楽が好きで、社会人になってからは、歌を趣味にするようになりました。

好きな音楽を通して、私なりに地域を盛り上げたいと、飲食店などを貸し切りにしたコンサートを企画しています。また、音楽だけで生計を立てられる音楽家は多くありません。私のコンサートはそういった音楽家たちを応援することも目的にしています。初めは年に数回の開催でしたが、今では毎月の開催ができるようになり、地元の人々にはかなり浸透してきています。



定期的にミニコンサートを開催している山岸社長（右から二人目）

— 最後に、協会に対してご意見・ご要望がありましたらお願いいたします。

毎年 1 月に熱海で懇親会が開かれていますが、それとは違った形で会員が集まれる場があってもよいと思っています。例えば、生演奏の音楽を聴きながら、交流を深めるといった催しや、コンサートや観劇の会などもあると面白いと思います。

また、私自身はオペラが好きなのですが、歌舞伎もよく見ます。どちらも長い歴史を持つ舞台芸術だけに、人々を惹きつける強い力を感じます。それらを見たことのない若い人のために、協会が芸術文化に触れられる場を作ってあげてもいいと思います。

それと、当社の女性社員が、モノづくりをしている会社の女子会に参加したところ、とても参考になる話が聞けたそうです。我々のような業界はまだまだ男性が中心で、女性ならではの悩みはなかなか社内では相談しにくいという側面があります。その会では、そういった悩みを相談することができ、有意義な時間を過ごせたそうです。これは女性限定の話ですが、そういった会を協会で開催してもよいのではないかと考えています。

食をテーマにしたおすすめの本～山岸達也社長

おすすめの本は文芸評論家・福田和也さんの著書、『悪女的美食術』です。レストランガイド的な内容の本かと思いきや、食における美学と文化に関する大変興味深い考察が展開されています。食通の人には必ずこの本を勧めています。

